



■最近の話題

豊嶋美栄子さん 平成29年度（第9回）梶木賞優秀賞受賞

全国農村振興技術連盟では、若手技術者の資質向上を目的に、将来の農業農村整備を担う若手技術者から、農村振興に関する論文を募集し優れた論文を毎年表彰しており、今年度、青森県農林水産部農村整備課の豊嶋美栄子さんが優秀賞を受賞しました。

豊嶋さんは、「農村の直面している課題とその対応策～中山間地における農地の計画的集積と農業の担い手について～」と題した論文で、農地収用に対する新しい提案や、農地に対する農業者の意識改革の必要性など、自身のこれまでの経験を踏まえた提言や抱負を分かり易く述べています。

今回の受賞が、本県の若手技術者の意識の高揚につながるきっかけになるとともに、豊嶋さんにおかれましては、若手技術者のリーダーとして、今後もさらなる活躍が期待される所です。

連携した担い手の育成と輸出力強化
とりこむ国際情勢と農地中間管理機構～
農業農村整備関係予算政府案の概要～
全国農村振興技術連盟・（公）青森県法人 農業農村工学会



2月22日サイエンスホールで表彰される豊嶋さん

たまねぎの栽培振興に向けた取組

青森県では、稲作経営に収益性の高い作物の導入を図るため、収益性の高い品目として「たまねぎ」に着目し、平成28年度から生産者やJA等の関係機関と連携しながら、試験栽培や先進地研修及び県内研修会を開催しています。

1 H29取組内容

(1) 先進地研修

兵庫県南あわじ市や富山県砺波市などにおいて、たまねぎについて、生産・経営・基盤整備の状況等を調査するとともに、関係者との意見交換を実施。

(2) 実証試験

青森県蓬田村において、新たに作付する予定のほ場を実証ほかに設定し、有効な雑草軽減対策を確立するための試験を実施。

(3) 県内研修会

つがる市、青森市、東北町の3会場で、たまねぎ栽培研修会を開催。

2 今後の予定

現在、生産法人による機械導入や生産者による生産組合設立など、栽培振興に向けた新たな芽が出てきていることから、今後も一大産地を目指し、生産者をはじめ関係機関が一体となって取り組んでいくこととしています。



たまねぎ乾燥冷蔵施設内部（あわじ市）



たまねぎ栽培研修会（青森会場）

■「環境公共」事例紹介

大畑漁港環境公共工事勉強会が開催（下北地方漁港漁場整備事務所）

去る平成 29 年 10 月 31 日、漁港整備工事や海に生息する生き物たちと触れ合いながら、海の環境の大切さを知ってもらうことを目的に、むつ市大畑町魚市場において大畑小学校の 5 年生児童 37 人を対象に大畑漁港環境公共工事勉強会が開催されました。

1 工事のお話

下北地方漁港漁場整備事務所の品川さんから工事のお話がありました。海に入れた石材を潜水士が平に均したり、100 t を超えるコンクリートブロックを作業船で吊り上げて運び、防波堤を作ることで、漁師さんが安全に漁業活動を行えることを学びました。



【工事を説明する品川さん】



【山・川・海を説明する二本柳さん】

2 山・川・海のお話

環境公共プロフェッショナルの二本柳さん（むつ市役所川内庁舎所長、専門分野：ナマコ資源調査・管理、サケ・マス養殖）から山・川・海をつなぐ水循環のお話がありました。山からの栄養が川を通して海へ流れ込み、ウニやアワビのエサとなるコンブ等の海藻が成長することを学びました。

3 魚市場の見学

水産物を出荷するまでに鮮度を落とさないよう保存する冷蔵施設や機械室を見学しました。

冷蔵施設は、主に漁師さんが殻を剥いてパック詰めしたウニを出荷までの間保存するものです。

また、機械室では魚市場内で使用する海水に紫外線をあててきれいにする機械や、海水でシャーベットをつくる機械等を見学しました。



【冷蔵施設の見学】



【機械室の見学】

4 水産生物の見学

地元の漁師さんが朝早く漁に出て大畑漁港沖からとってきてくれたカレイ、イカ、タコ、サバ、アンコウ等を見学し、その生態について学びました。

最後に、代表児童が「山・川・海の大切さがわかって良かったです。」などと、今回の勉強会での感想を述べていました。



【大畑小学校の5年生のみなさん】

